

大嶺の吾妻のふもとから
～2024 校長室だより～
Vol.7 10月21日

10月16日から3日間の行程で、自治会執行部の生徒3名と、担当教員、そして校長の5名が、宮崎県立高鍋高校を訪問しました。米沢の人々が、最も尊敬する先人のお一人である鷹山公の故郷を訪ねることができ、たくさんのことを学びました。

米沢興讓館高校は、秋月藩6代藩主秋月種美(たねみつ)公の次男、7代藩主種茂(たねしげ)公の弟で、米沢におこし下さった9代藩主鷹山公から、「興讓館」の校名をいただき、受け継いでおります。10歳の時に米沢藩8代藩主上杉重定公の養子として、上杉家に入られた鷹山公は、17歳で家督を継がれて以来、当時、大飢饉や経済難により窮地に立たされていた米沢藩を優れたリーダーシップで再興されました。かの、ジョンFケネディも、尊敬する政治家として鷹山公の名を挙げたといわれます。

秋月藩が所在した宮崎県高鍋町との交流は、昭和56年の高鍋町と米沢市との姉妹都市締結以来43年、さらに西暦2000年に高鍋高校と本校との学校間交流が始まってから、24年という歴史があります。今年は私たちの訪問が実現できたことを、大変うれしく思っております。高鍋高校においては、お忙しい中、私たちのために時間を割いていただき、歓迎式典や生徒会交流会などを催していただきました。温かく受け入れていただき誠にありがとうございました。



本校は、2年後の令和8年に藩校創立250年の記念すべき年を迎えようとしています。250年の時を超えて鷹山公の教えに学び、また、そのルーツをたどるとき、高鍋町の皆様との、今後益々の交流をとおして、歴史を伝え、郷土の発展に努めていかなければならないと思いました。今回訪問させていただいた私たち5名もしっかりとその責務を果たすべく、高鍋の皆様との絆を確かめ合いながらしっかりと学び、米沢に持ち帰って全校生徒と共有したいと思っております。

高鍋高校の山尾校長先生はじめ教職員・生徒の皆様、大変お世話になりました。

